

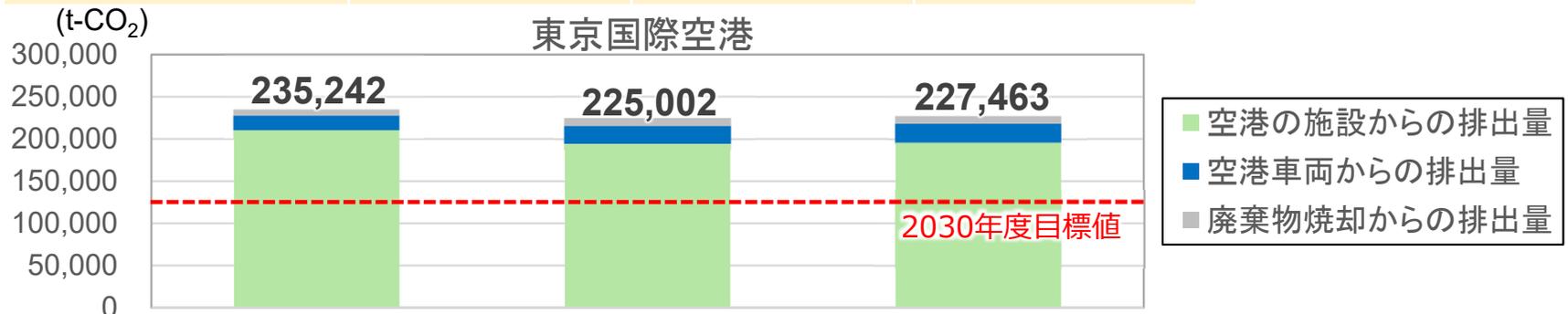
■目標:2013年度比 温室効果ガスの削減量

2030年度目標	2013年度比 46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

■取組み状況

- **空港の施設**：航空灯火のLED化により、2023年度のCO₂排出量は推定333t-CO₂/年削減。(2013年度比0.14%相当)
施設照明のLED化により、2023年度のCO₂排出量は推定1,537t-CO₂/年削減。(2013年度比0.65%相当)
空調・熱源機器の省エネ化により、2023年度のCO₂排出量は推定107t-CO₂/年削減。(2013年度比0.045%相当)
太陽光発電の導入により、2023年度のCO₂排出量は推定433t-CO₂/年削減。(2013年度比0.18%相当)
環境価値の購入により、2023年度のCO₂排出量は推定72t-CO₂/年削減。(2013年度比0.031%相当)
- **空港車両**：空港車両のEV化により、2023年度のCO₂排出量は推定57t-CO₂/年削減。(2013年度比0.024%相当)
空港車両のBDF化により、2023年度のCO₂排出量は推定39t-CO₂/年削減。(2013年度比0.017%相当)
- **廃棄物の焼却**：ごみの分別により焼却量を削減することで、CO₂排出量削減の取組みを実施。

区分	実績 (CO ₂ 排出量) [t-CO ₂ /年]		
	2013年度	2019年度	2023年度 (現状)
空港の施設からの排出量	210,705	194,697	196,113
空港車両からの排出量	17,437	21,092	22,361
廃棄物の焼却からの排出量	7,100	9,213	8,989
計	235,242	225,002	227,463



■CO₂排出量の増減理由

- 2023年度における空港の施設からのCO₂排出量は2019年度に比べ増加した。施設照明・航空灯火LED化、太陽光発電の導入、空調・熱源機器省エネ化、再エネ由来電力購入等が進んだ一方で、コロナ禍からの旅客需要の回復や施設の増加などが影響したと考えられる。
- 2023年度における空港車両からのCO₂排出量が2019年度に比べ増加したのは、コロナ禍からの旅客需要の回復によりランプバスの走行量が増加したことが影響したと考えられる。
- 2023年度における廃棄物の焼却からのCO₂排出量が2019年度に比べ減少したのは、ごみの分別が進んだことが影響したと考えられる。

2023年度 ※2024年度時点での協議会構成員からの報告をもとに作成